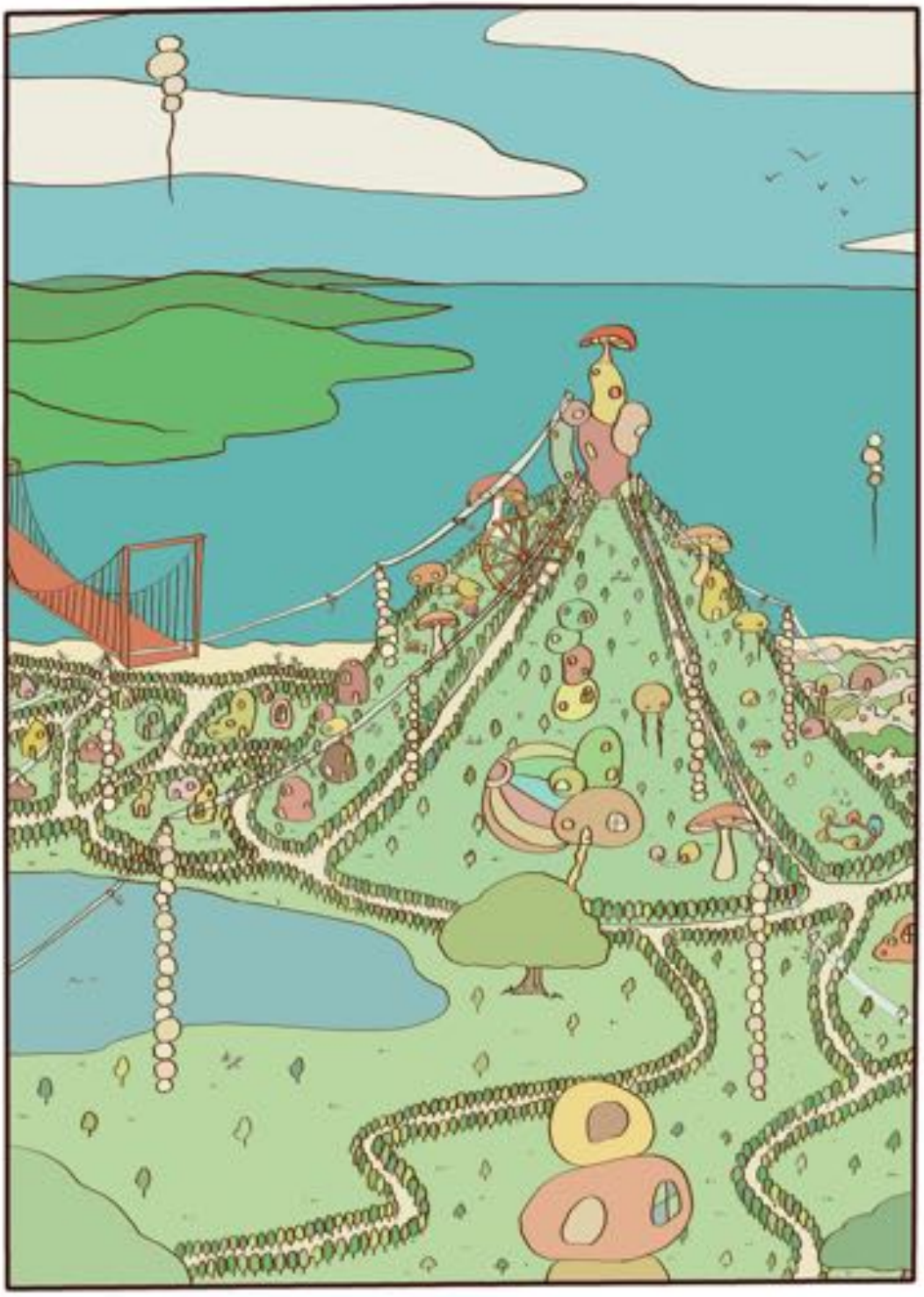
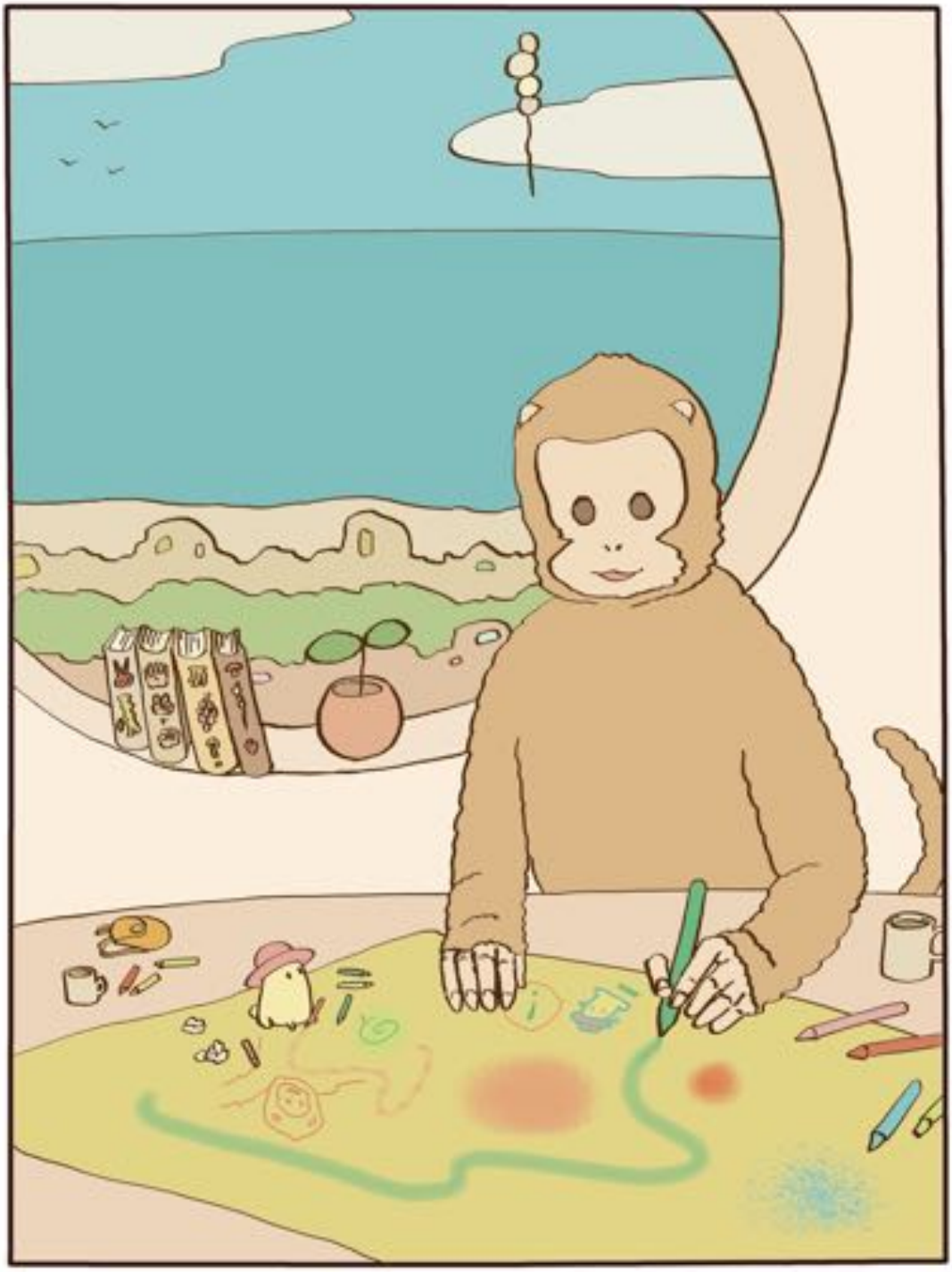
テトと せの ひくい サル

リーデル ミカ

2015 Riedelcastro Publishing

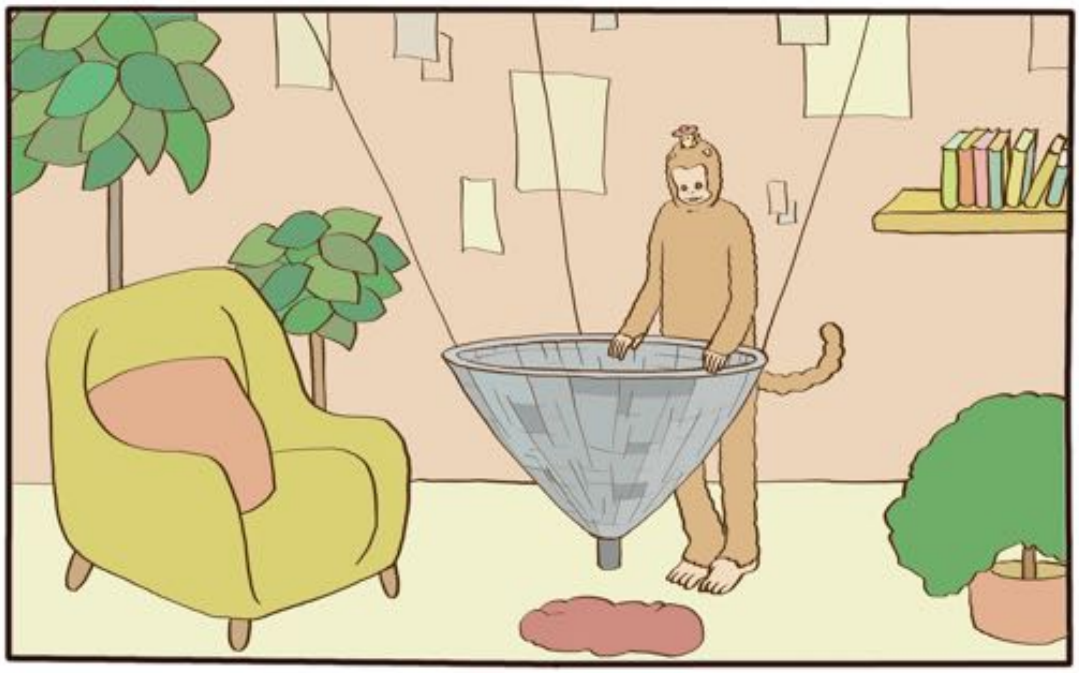


あるひのこと　テトは　ともだちの　サルの　まち
サルラに　いました。



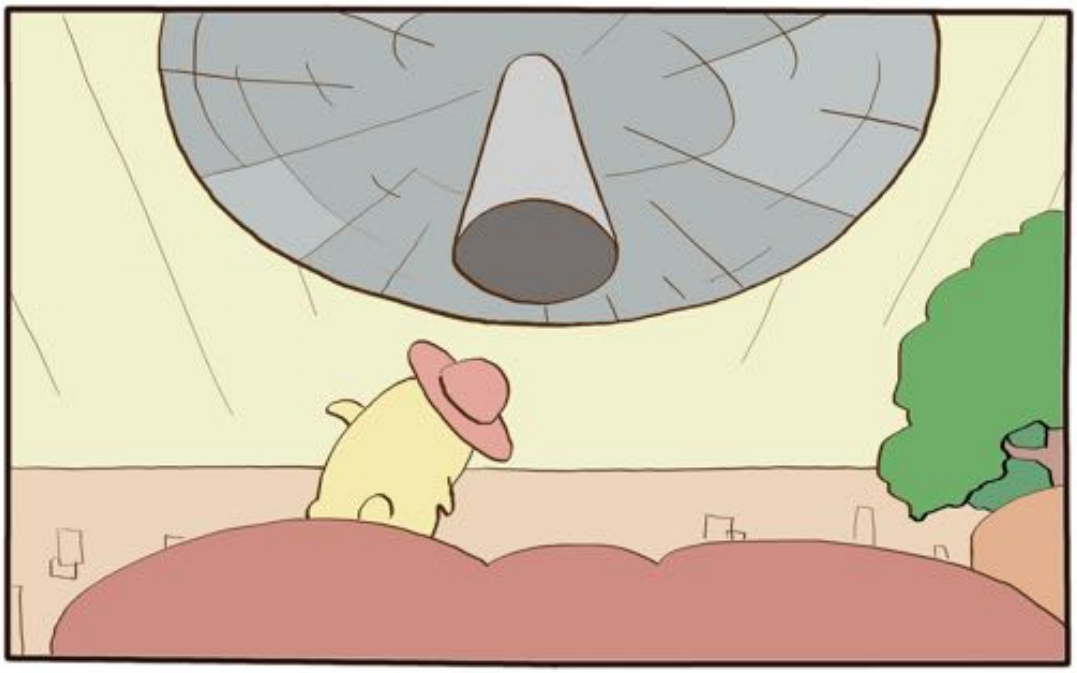
「じつはね　みせたい　ものが　あるんだ。」
サルが　いいました。
「なに？」テトが　ききます。

「ぼくの　いえの　ちかに　おばあちゃんの
けんきゅうしつが　あるんだ。」
サルが　いいました。
「きみの　おばあちゃん　かがくしゃ　なんだっけ。」
サルは　テトを　ちかに　つれていきました。

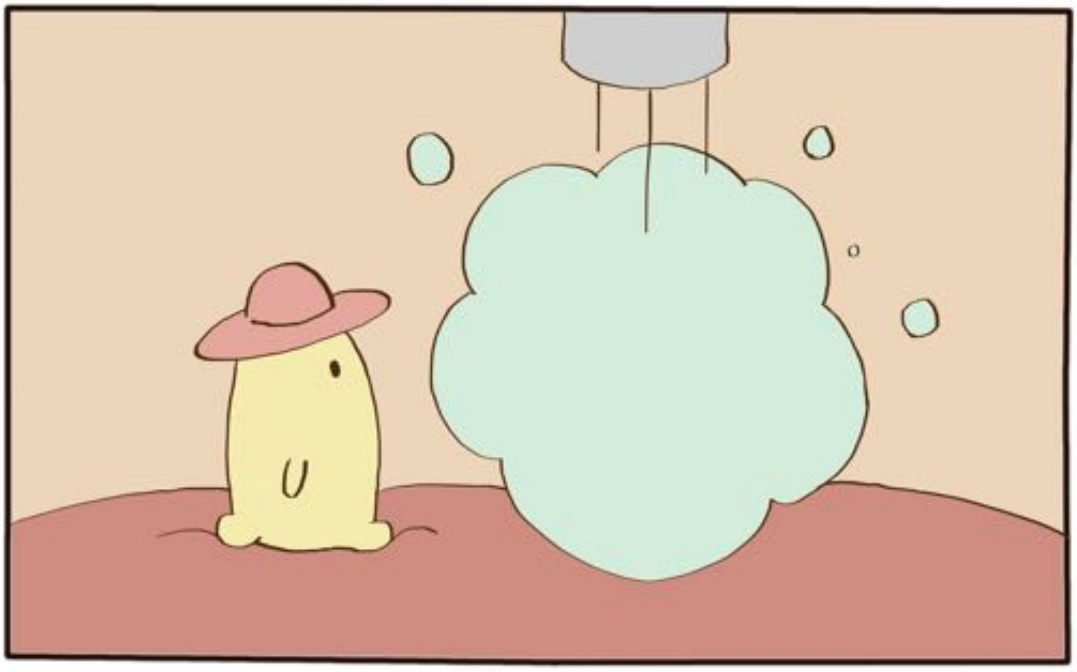


「これを　みせたかったんだ。ちいさく　なれる
きかい　なんだって！」サルが　いいました。

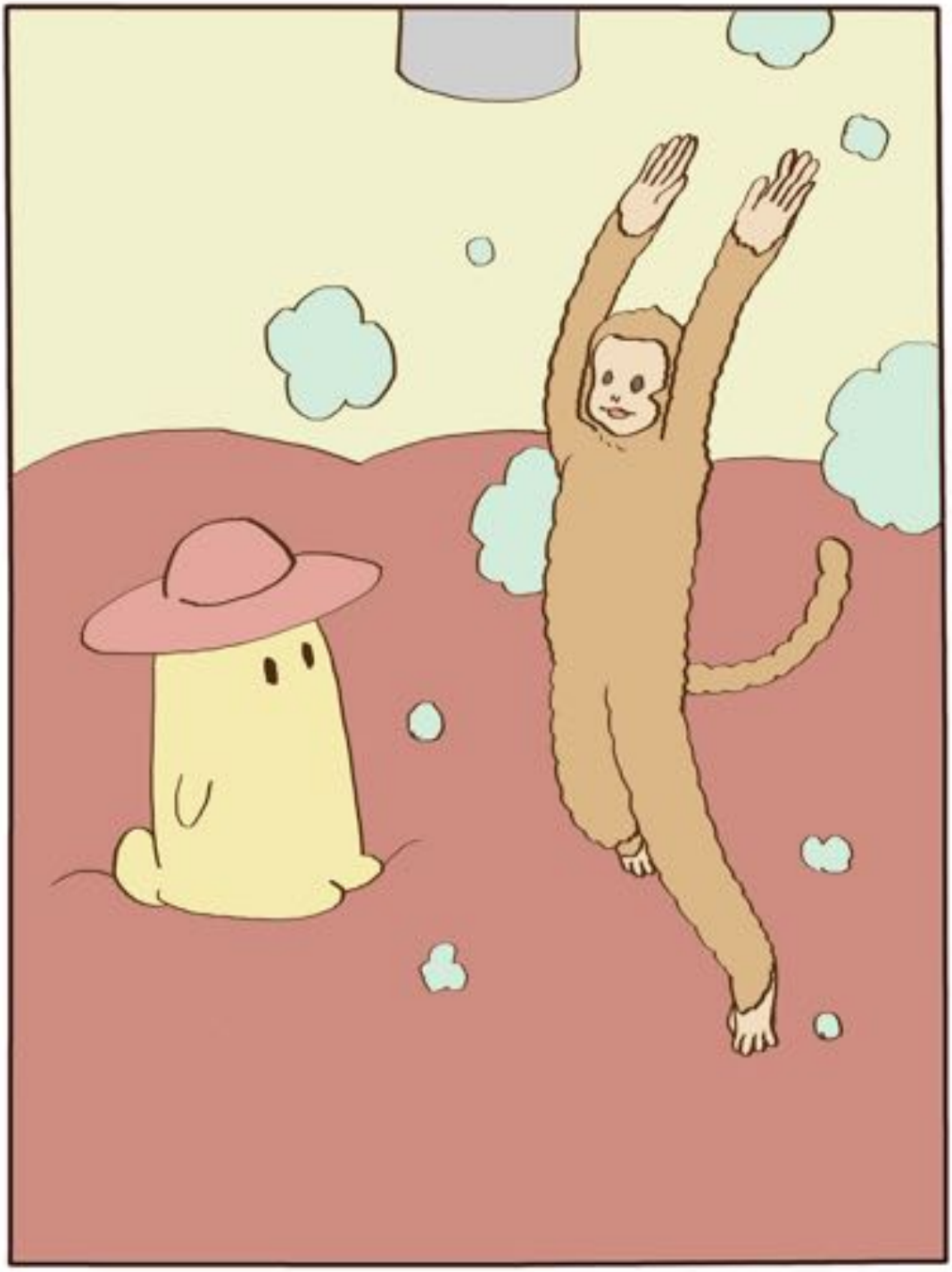
「やってみるね。テトは　そこで　まっててて。」
サルは　きかいの　なかへ　はいって　いきました。



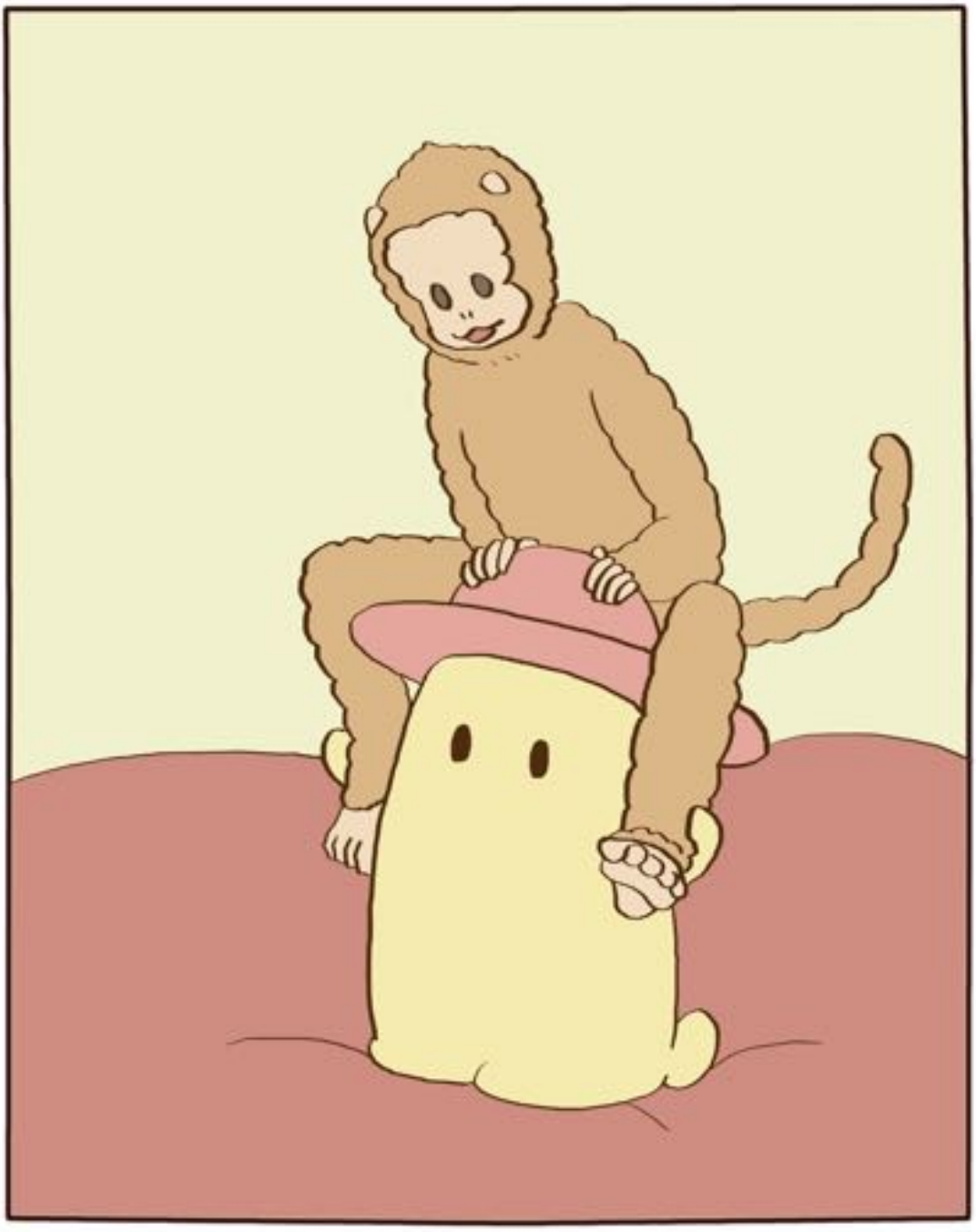
「サル　あそこから　でてくるのかな？」
テトは　きかいの　なかを　のぞきこみました。



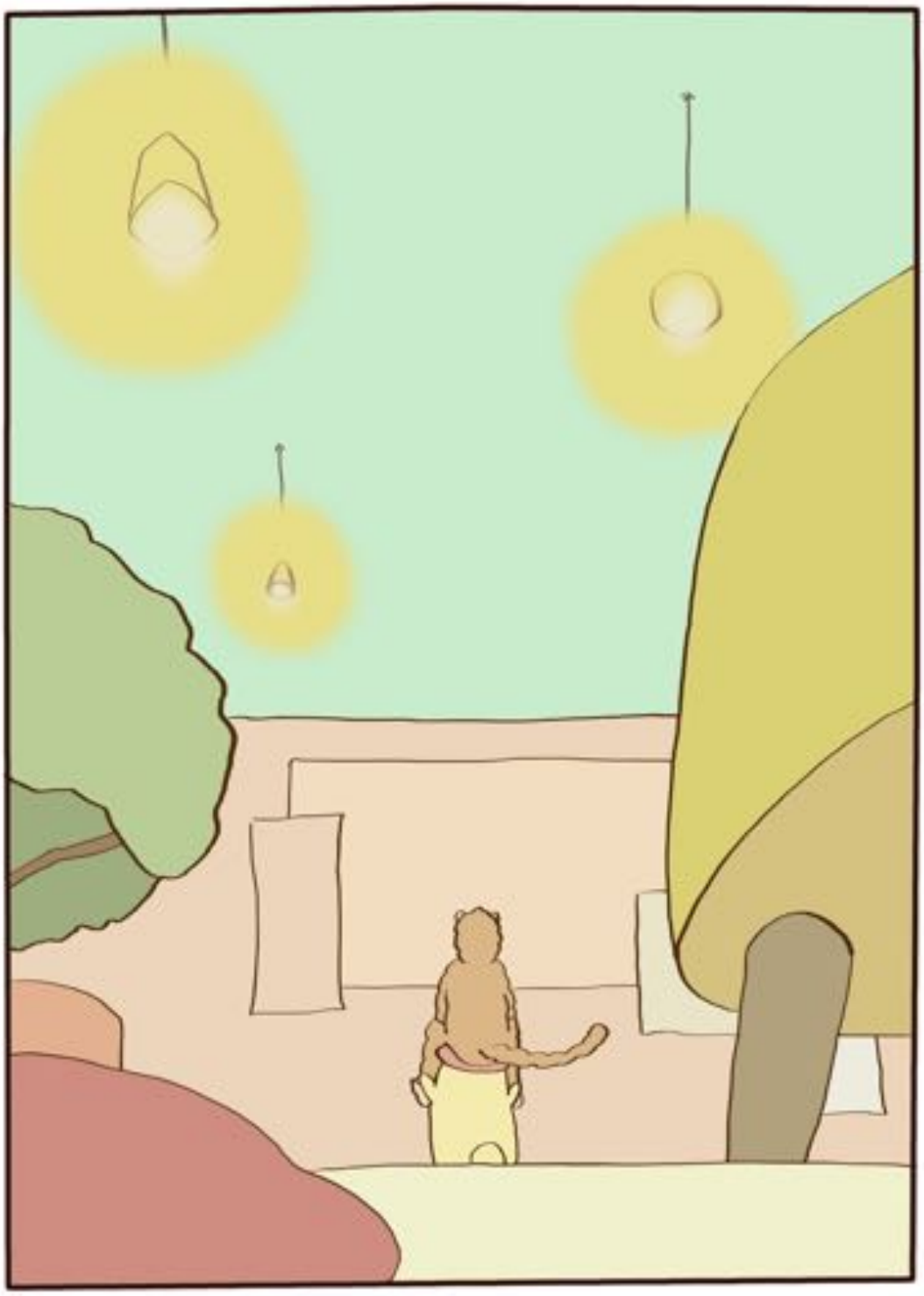
スポン！しばらくすると　きかいから　あわの
ような　ものが　でてきました。



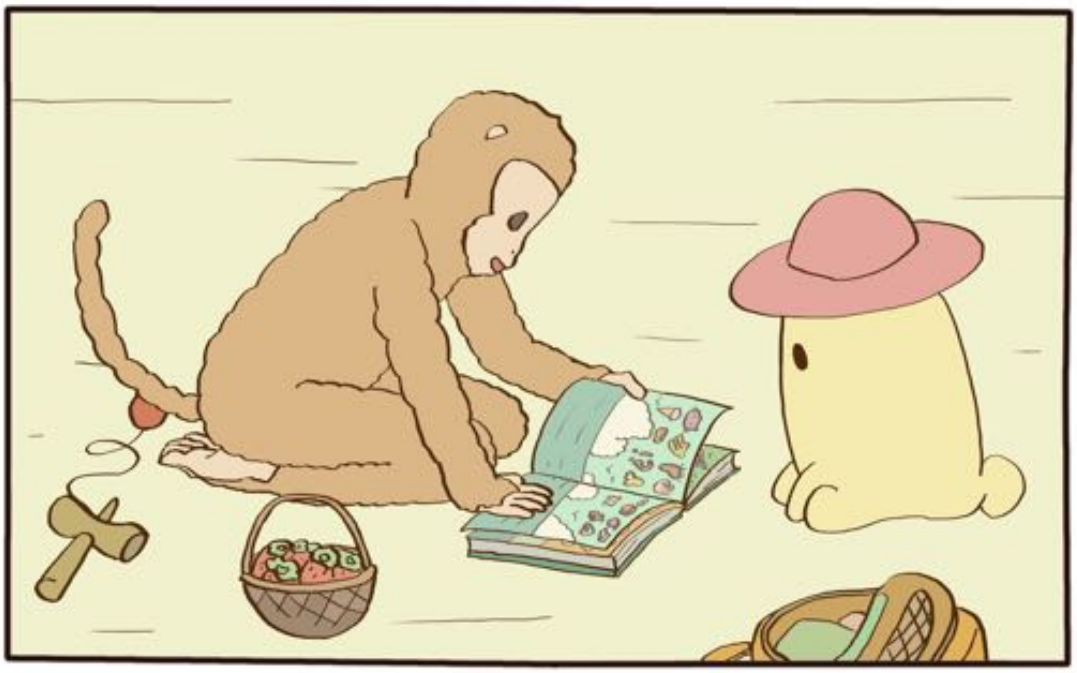
「じゃーん！」
あわの　なかから　でてきたのは　サルでした！



「ほんとに　ちいさくなったね！」
テトは　おどろきました。
「テトに　かたぐるま　してもらえるよ！」
サルは　ちいさくなれて　よろこびました。

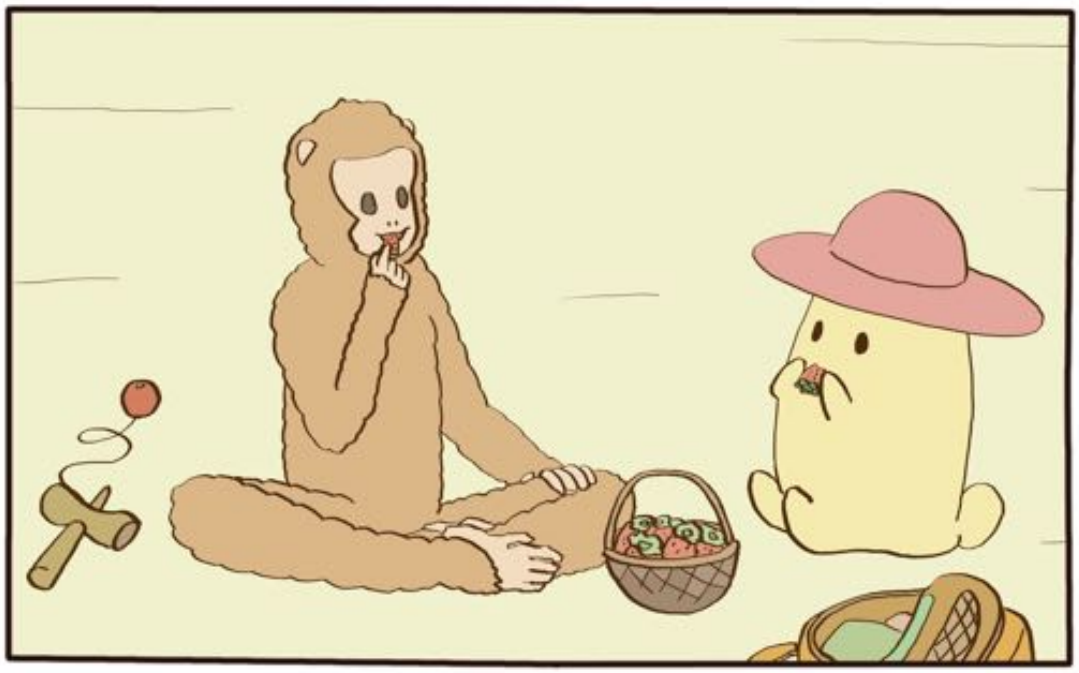


「うわー！いろんな　ものが　おおきいなあ！」
サルは　おどろいています。
「そう？」テトが　ききました。

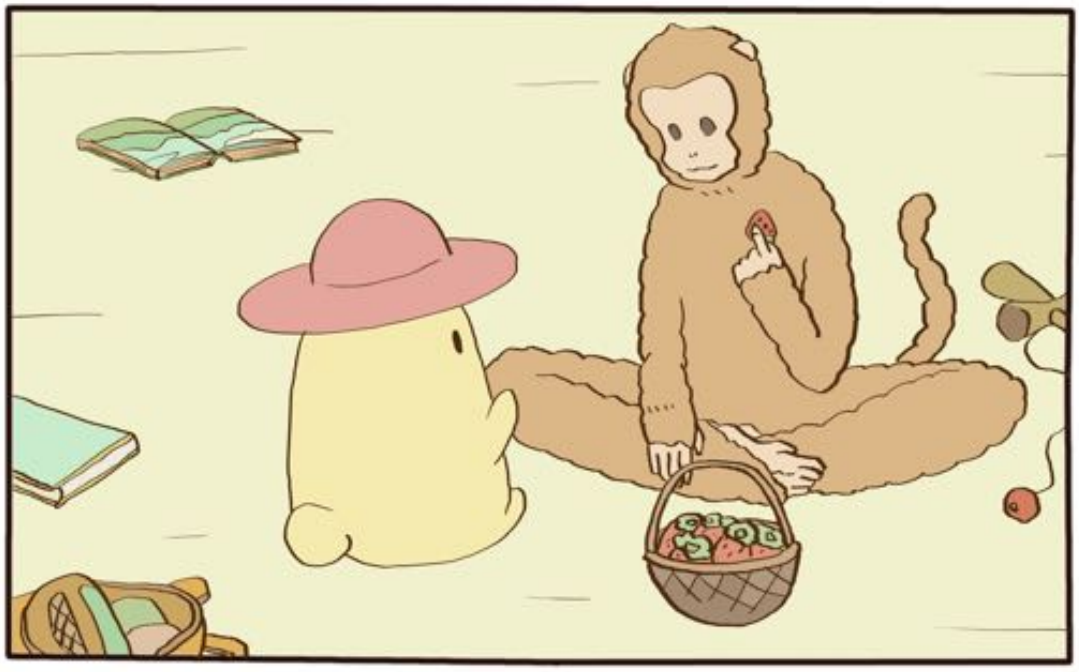


「むしめがねを　つかわなくても　テトの　ほんが
よめるよ！」サルが　いいます。

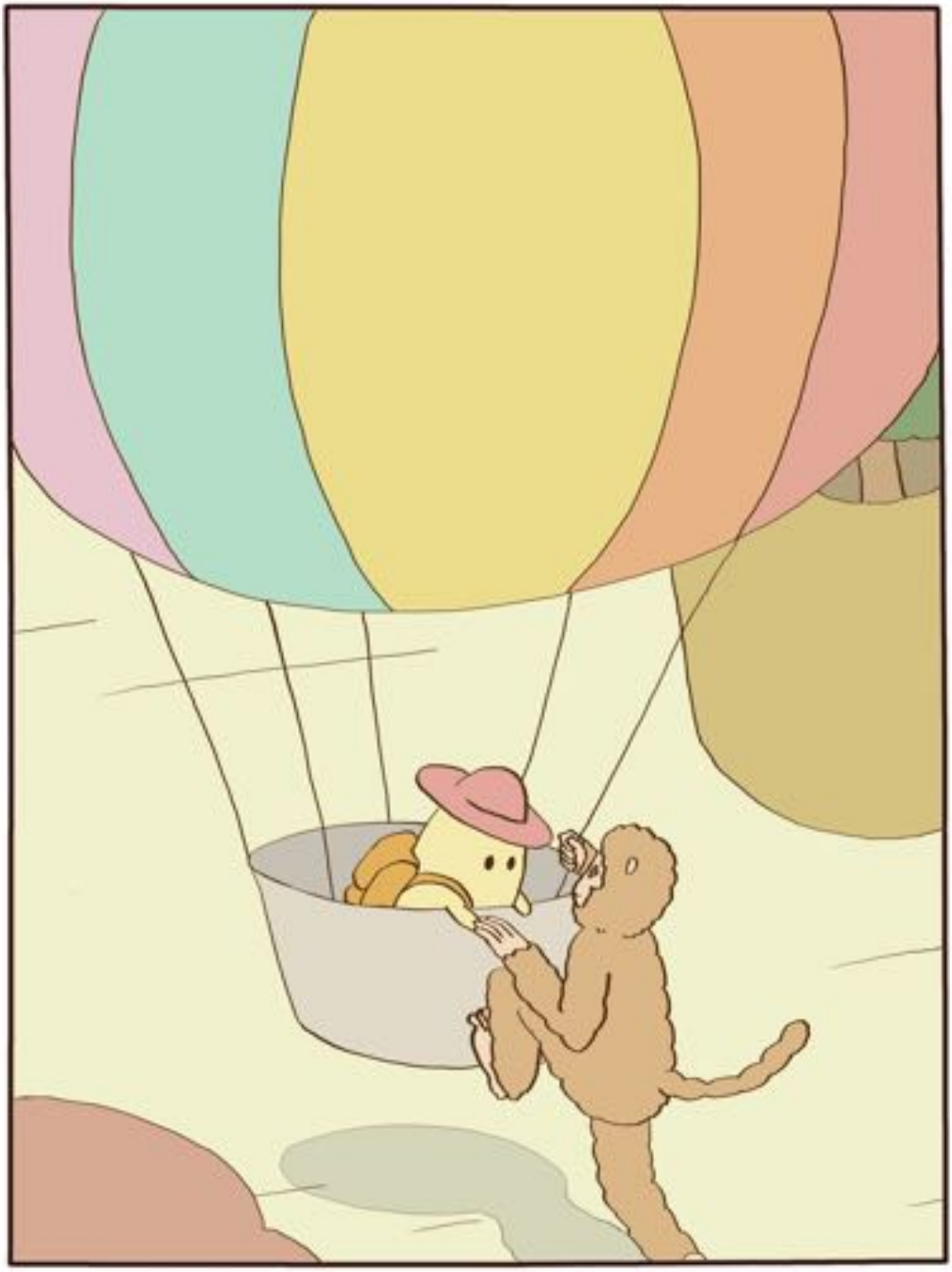
「テトの　ぼうしも　かぶれる！」



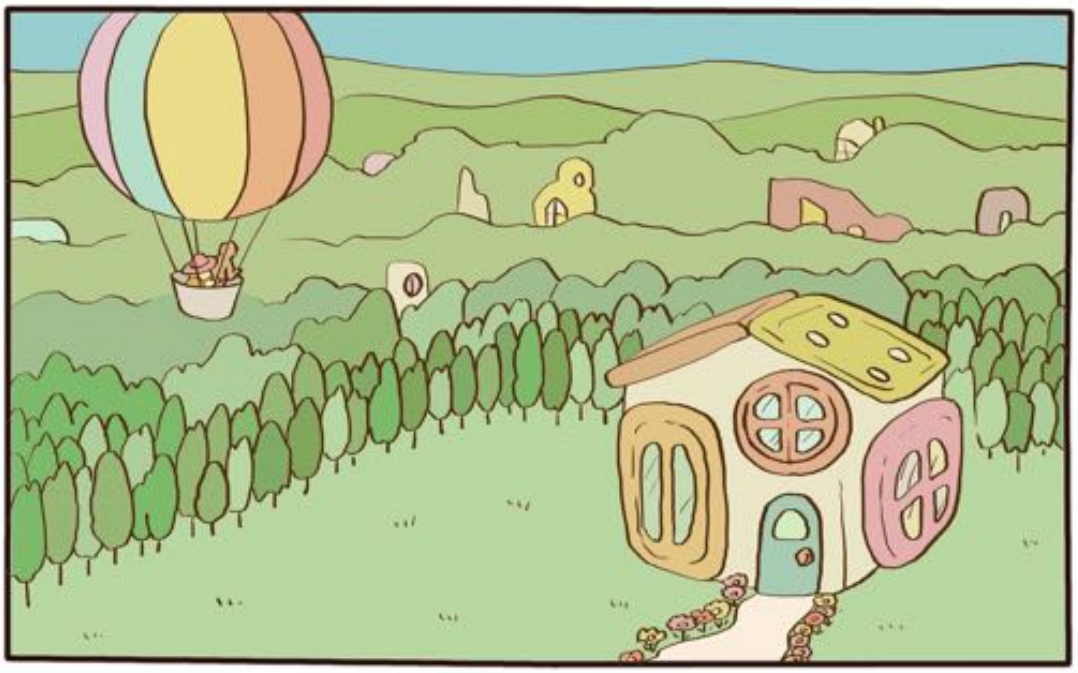
「テトの　いちご　あまいなあ！ちいさく　なるのって　たのしいね！」



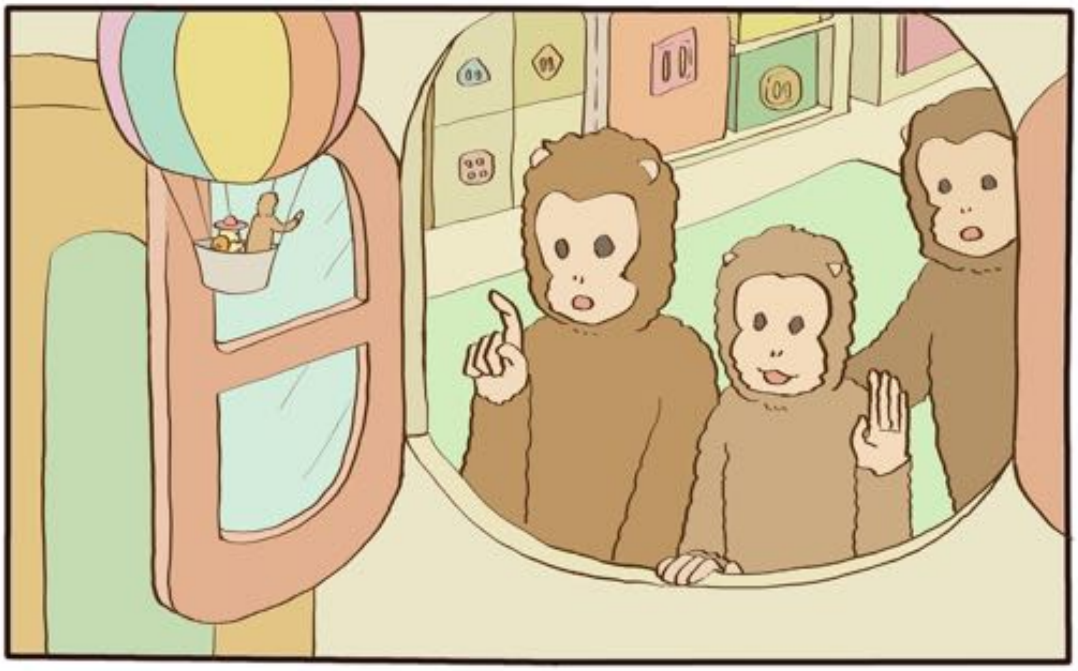
「ところで　サル、もとに　もどれるの？」
「…　わかんない…。」



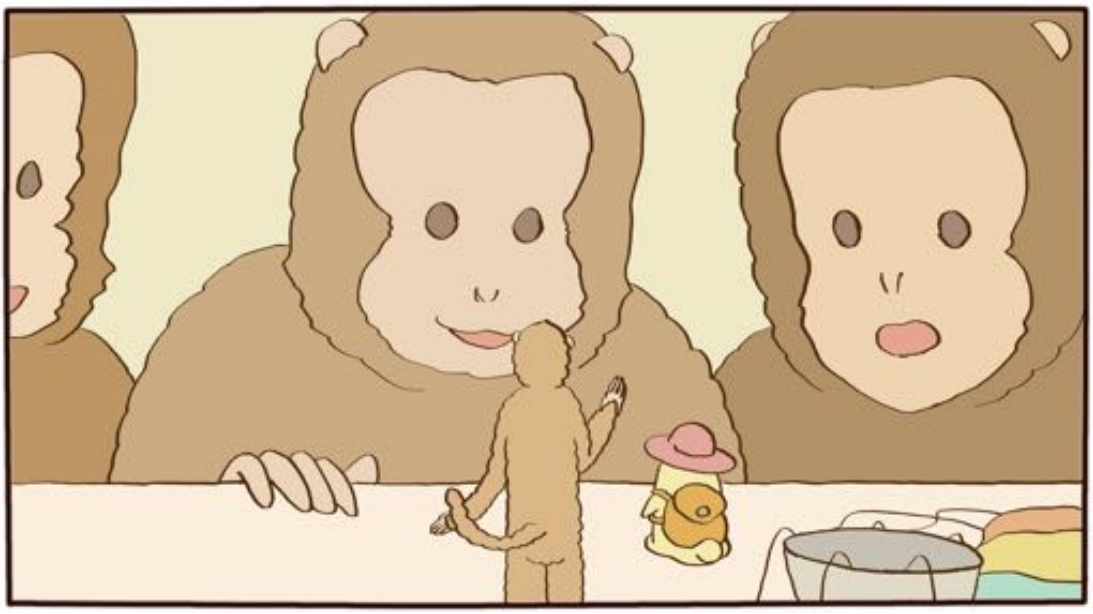
もとに　もどれるか　きくために　ふたりは
サルの　おばあちゃんを　さがしに　いくことに
きめました。



ききゅうに　のって　しばらく　いくと
ボタンやさんに　つきました。



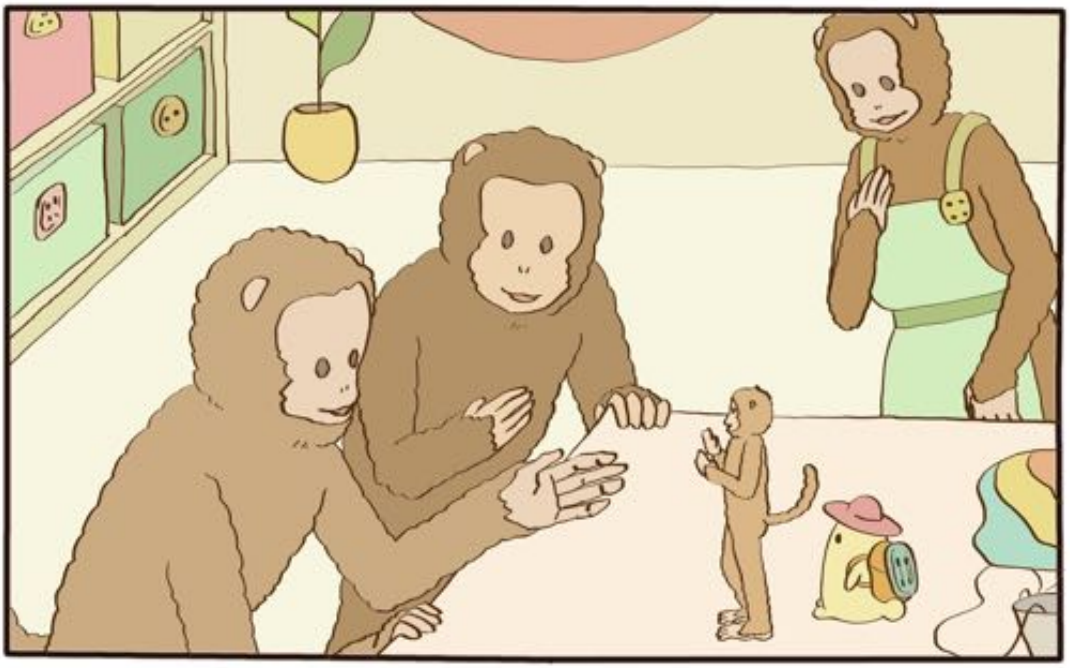
「え？サル？なんでそんなにちいさいの？」
サルラたちは　とても　おどろきました。



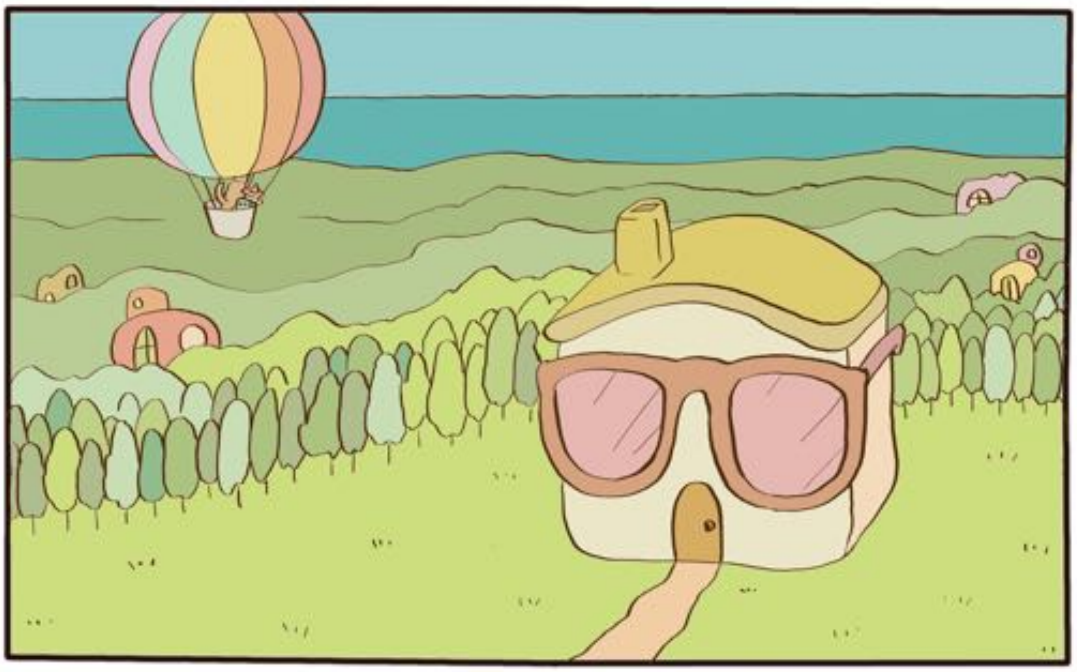
「ぼくたちも　あとで　ちいさく　なれる？」
「なれると　おもうよ。」サルが　こたえ、サルラは
とても　よろこびました。「やったー！」

よろこぶ　サルラたちと　サルが　はなしを
しているあいだ　テトは　ボタンを　みていました。

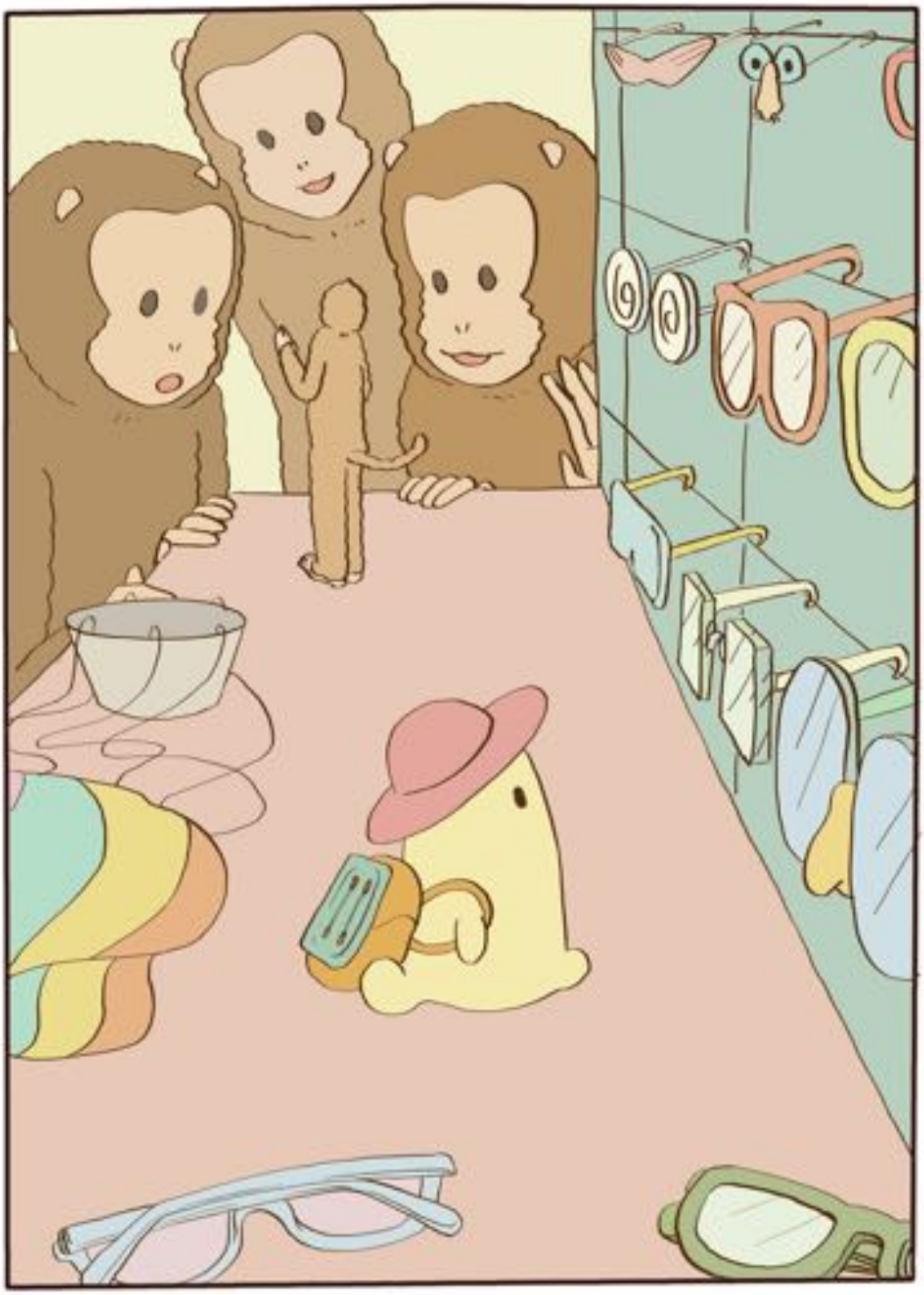
「この　ボタン　きれいだな。」テトが　いうと、
「あげるよ。」と、おみせの　サルラが　いいました。
「ありがとう！」テトは　とても　よろこびました。



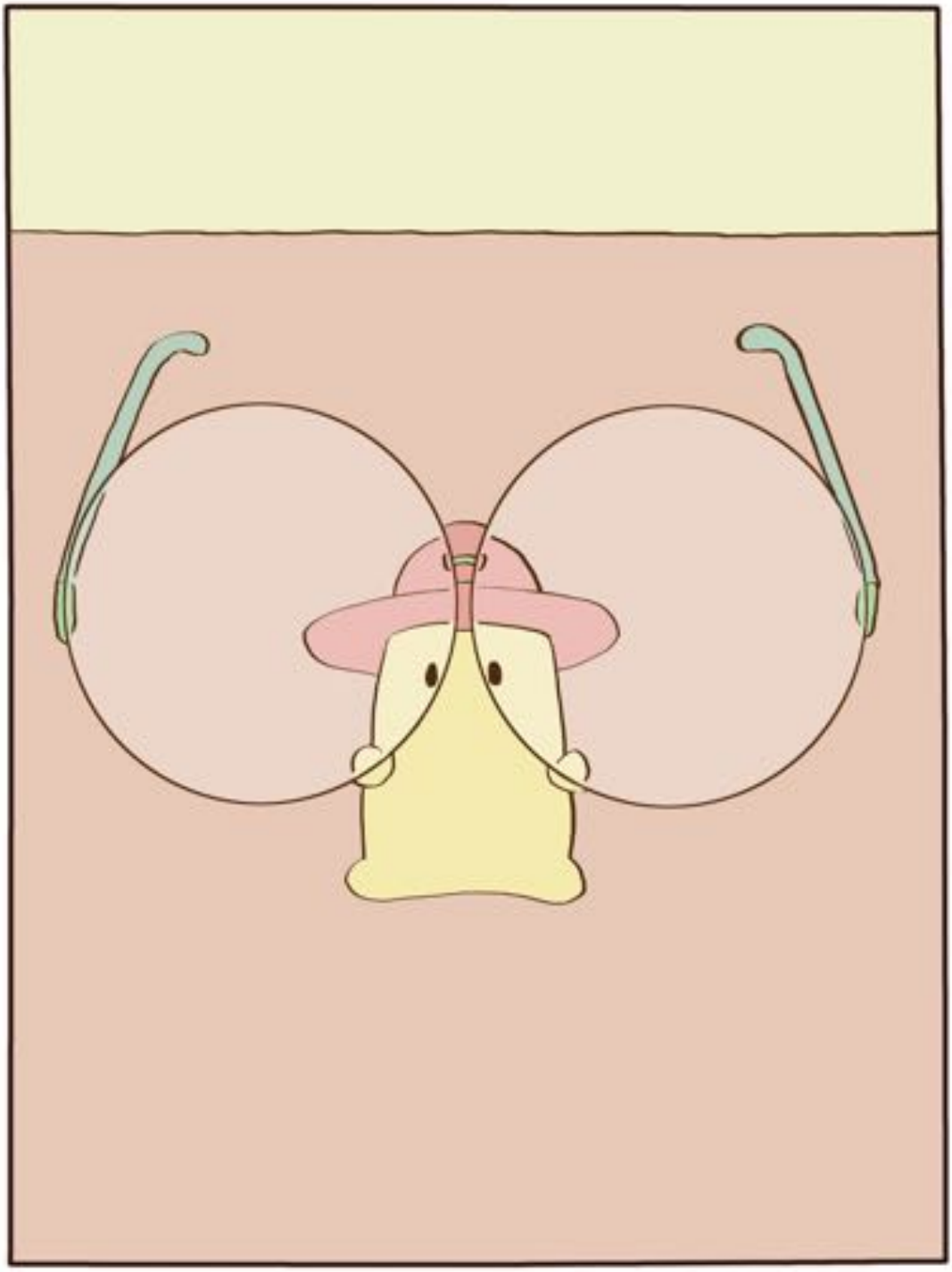
「きみの　おばあちゃんなら　めがねやさんに
いったと　おもうよ。」と、サルラたちから
きいた　ふたりは、



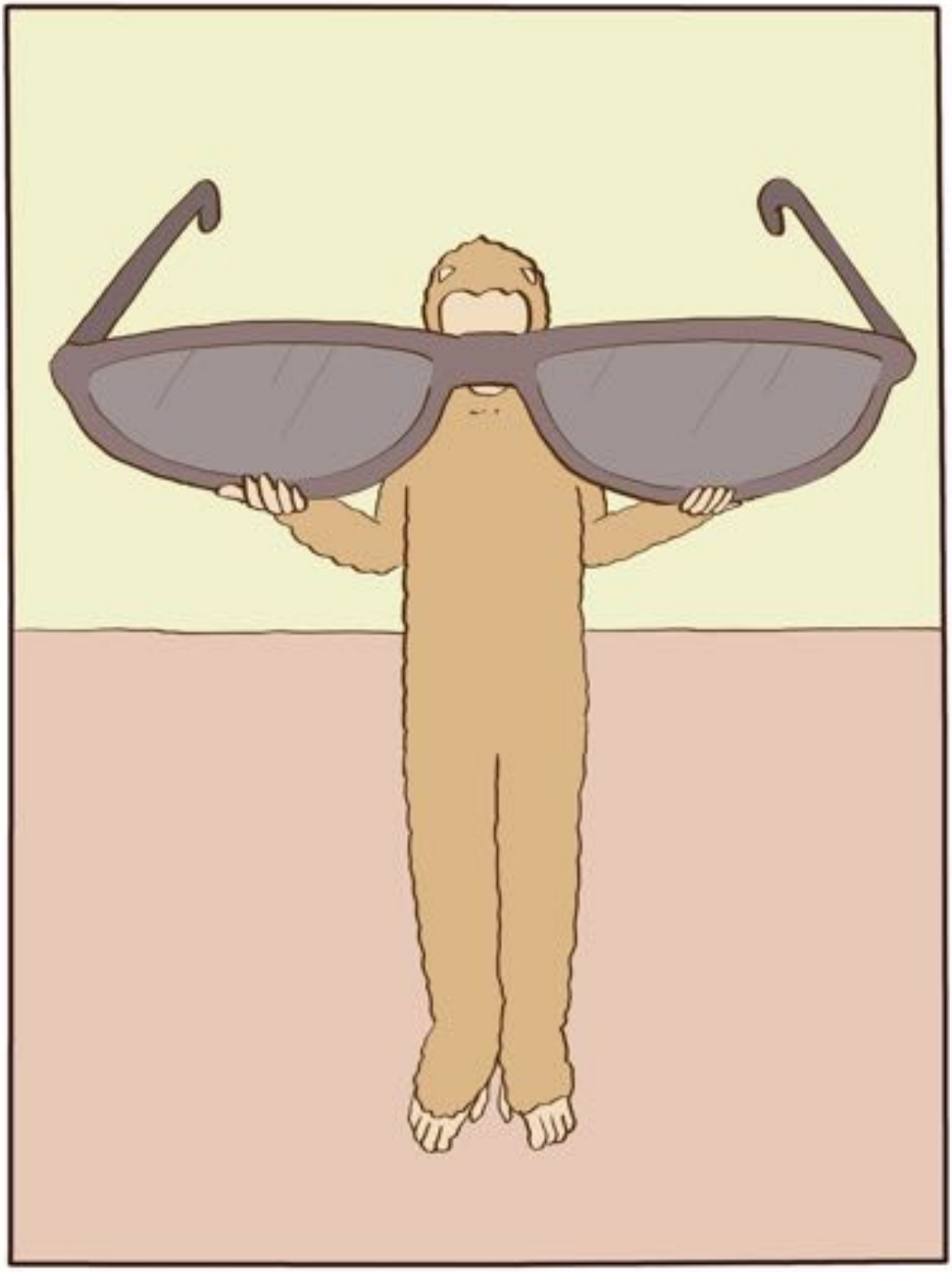
めがねやさんへと　むかいました。



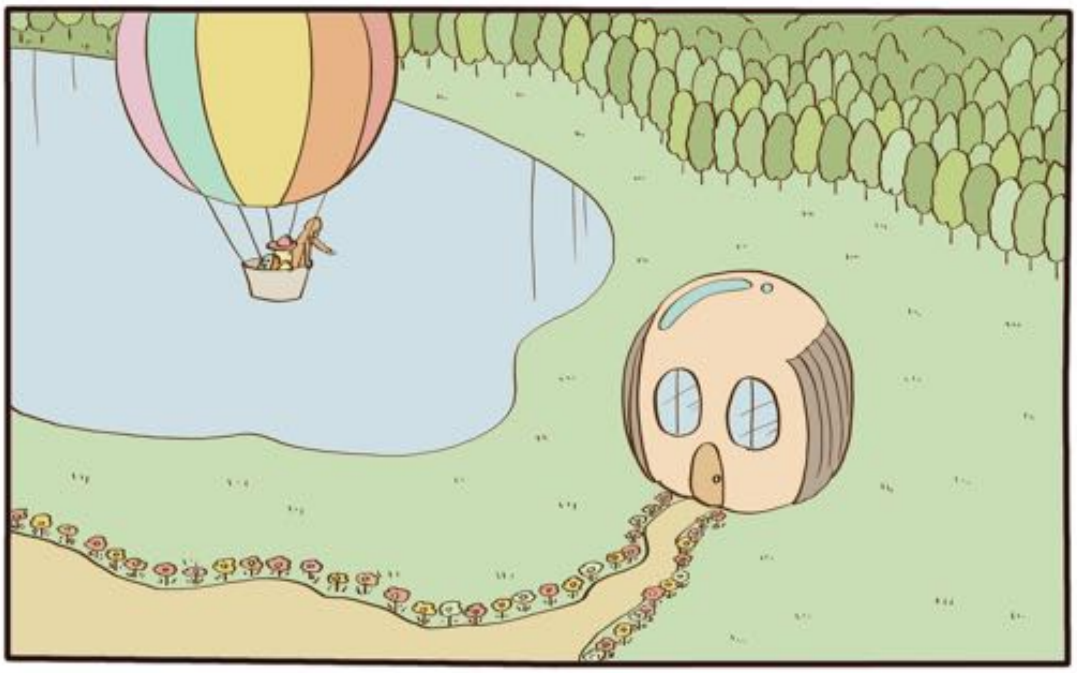
サルが　おどろく　サルラたちに　せつめいを
しているあいだ　テトは　めがねを　みていました。



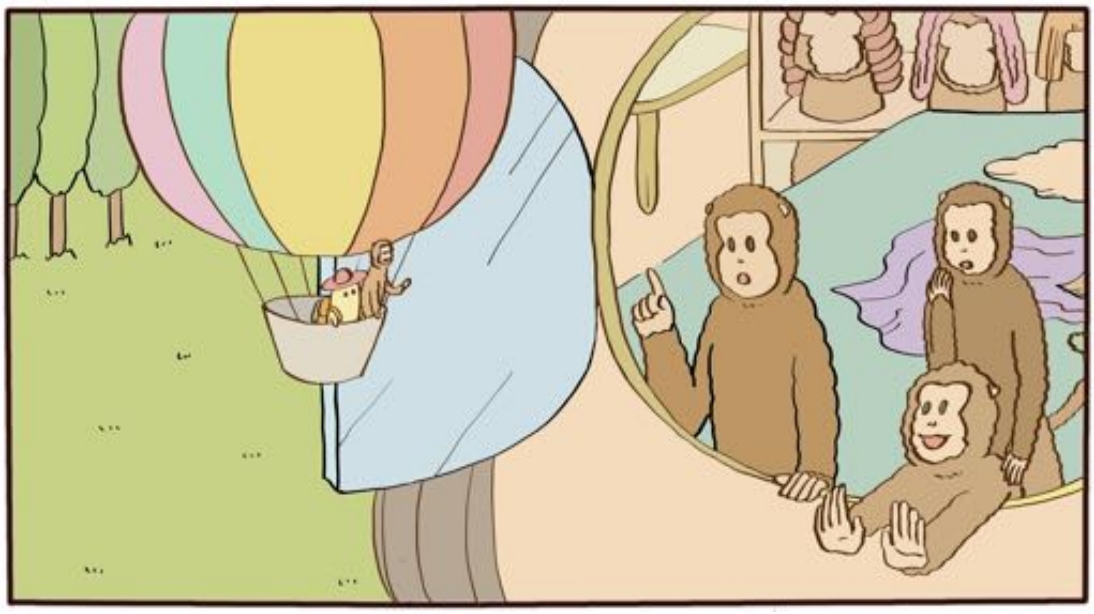
「これ　すきだな。」
テトは　めがねを　かけてみました。



「ぼくは　これが　すきだな。」
サルは　サングラスを　かけてみました。

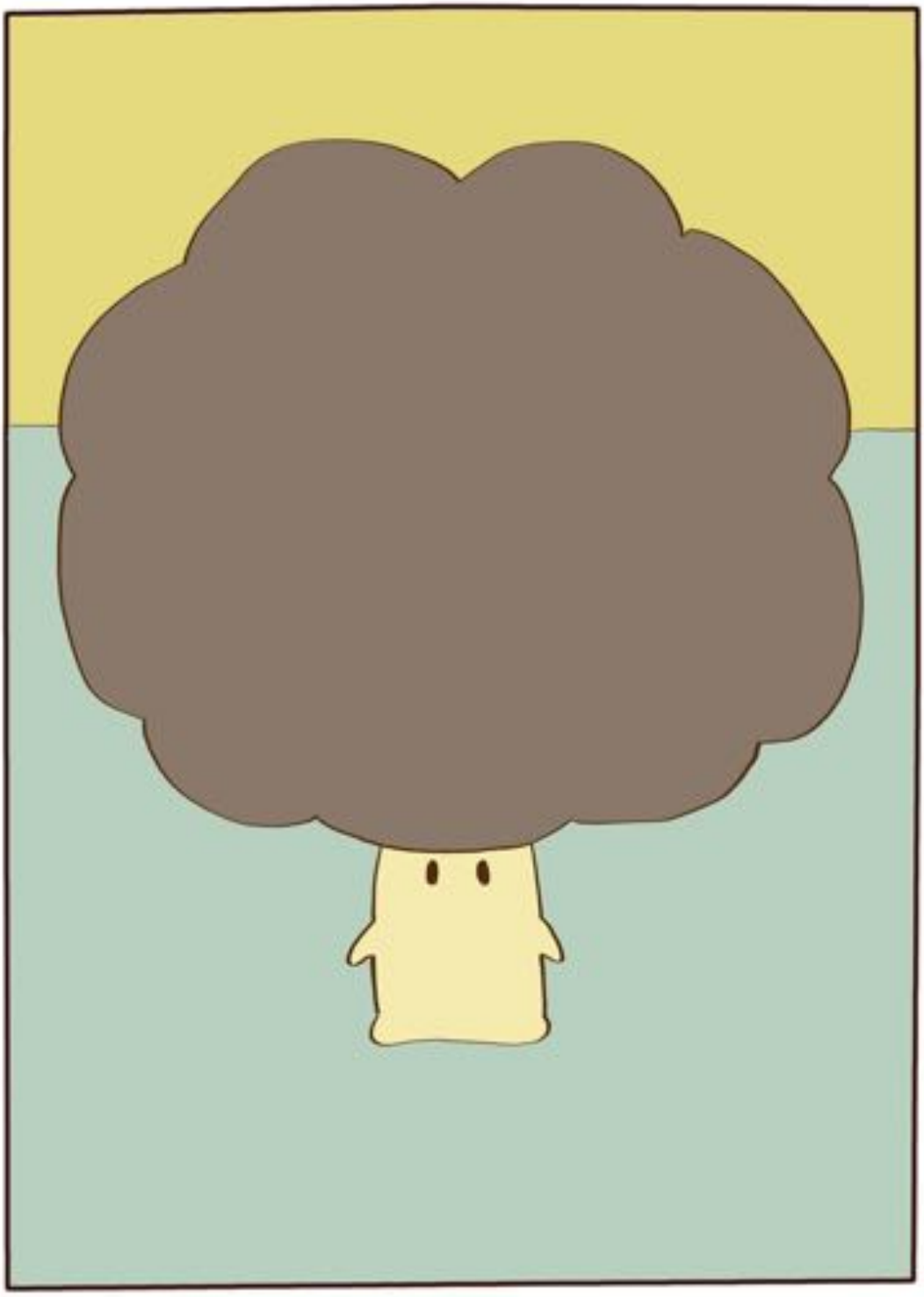


ふたりは　つぎに　おばあちゃんが　むかった
かつらやさんに　いきました。

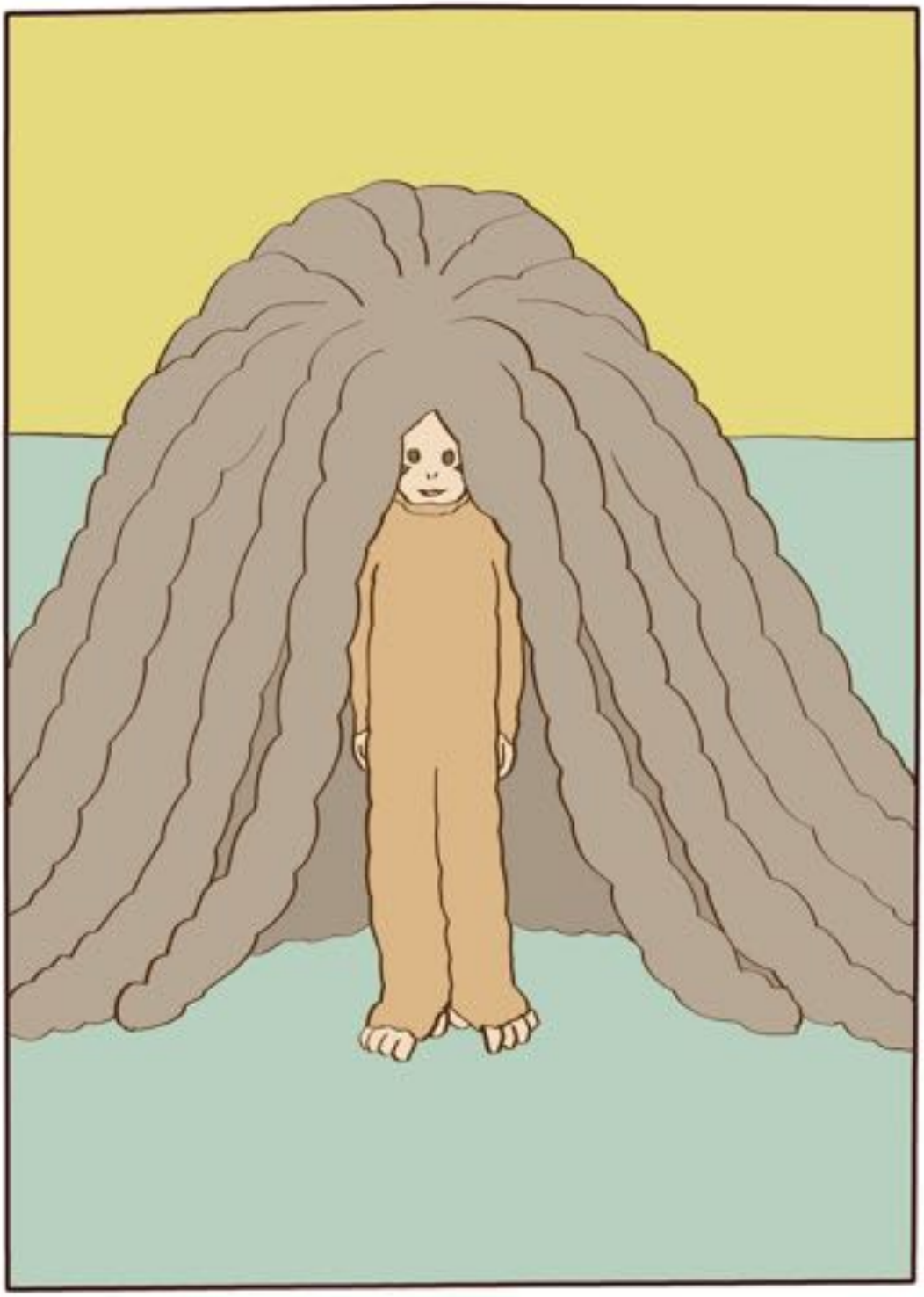


「え？ ひょっとして　サル？」
「すごく　ちいさいね！」
「いいなあ！」サルラたちが　いいました。

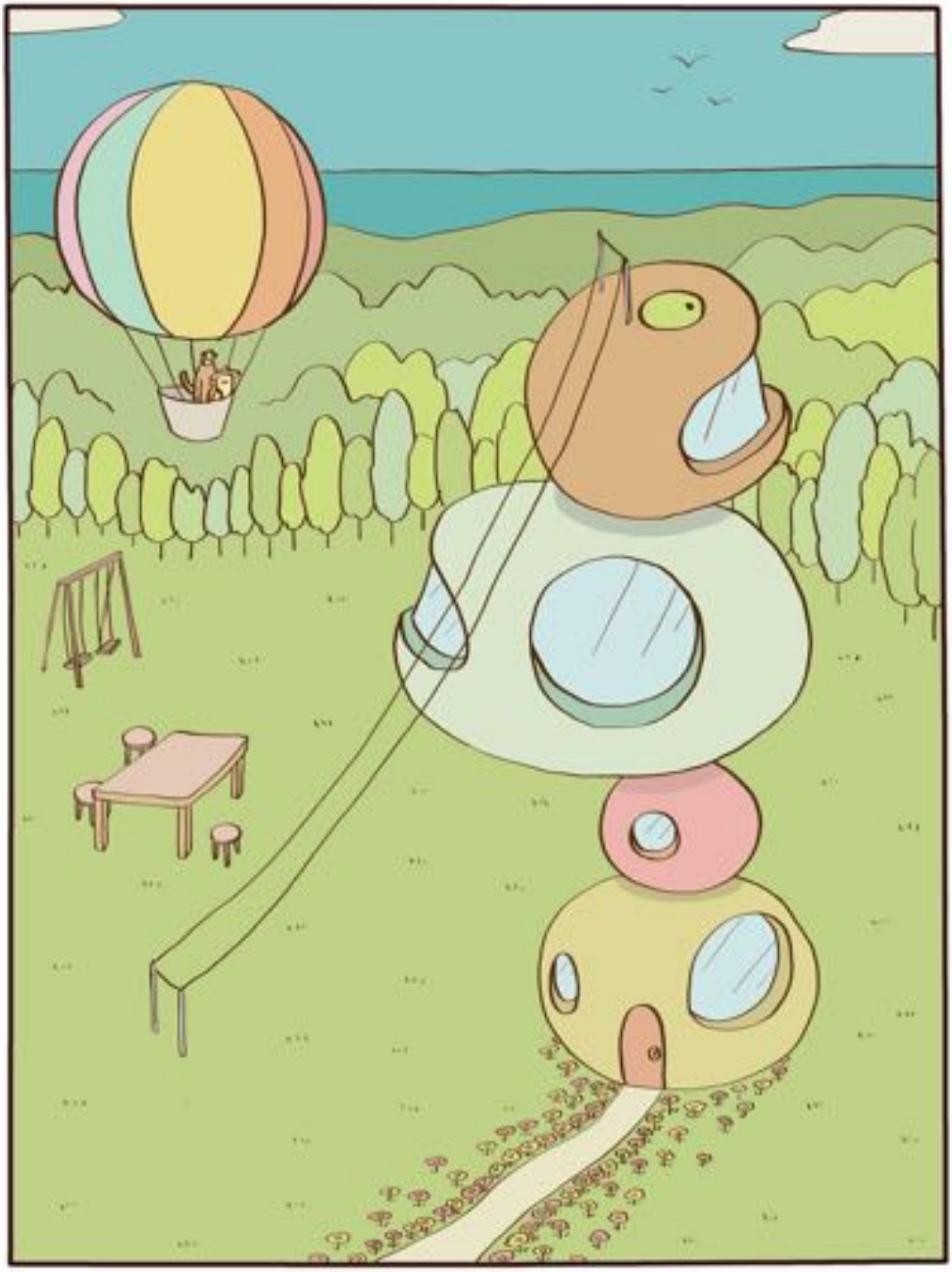
サルが　おどろく　サルラたちに　せつめいを
しているあいだ　テトは　かつらを　みていました。



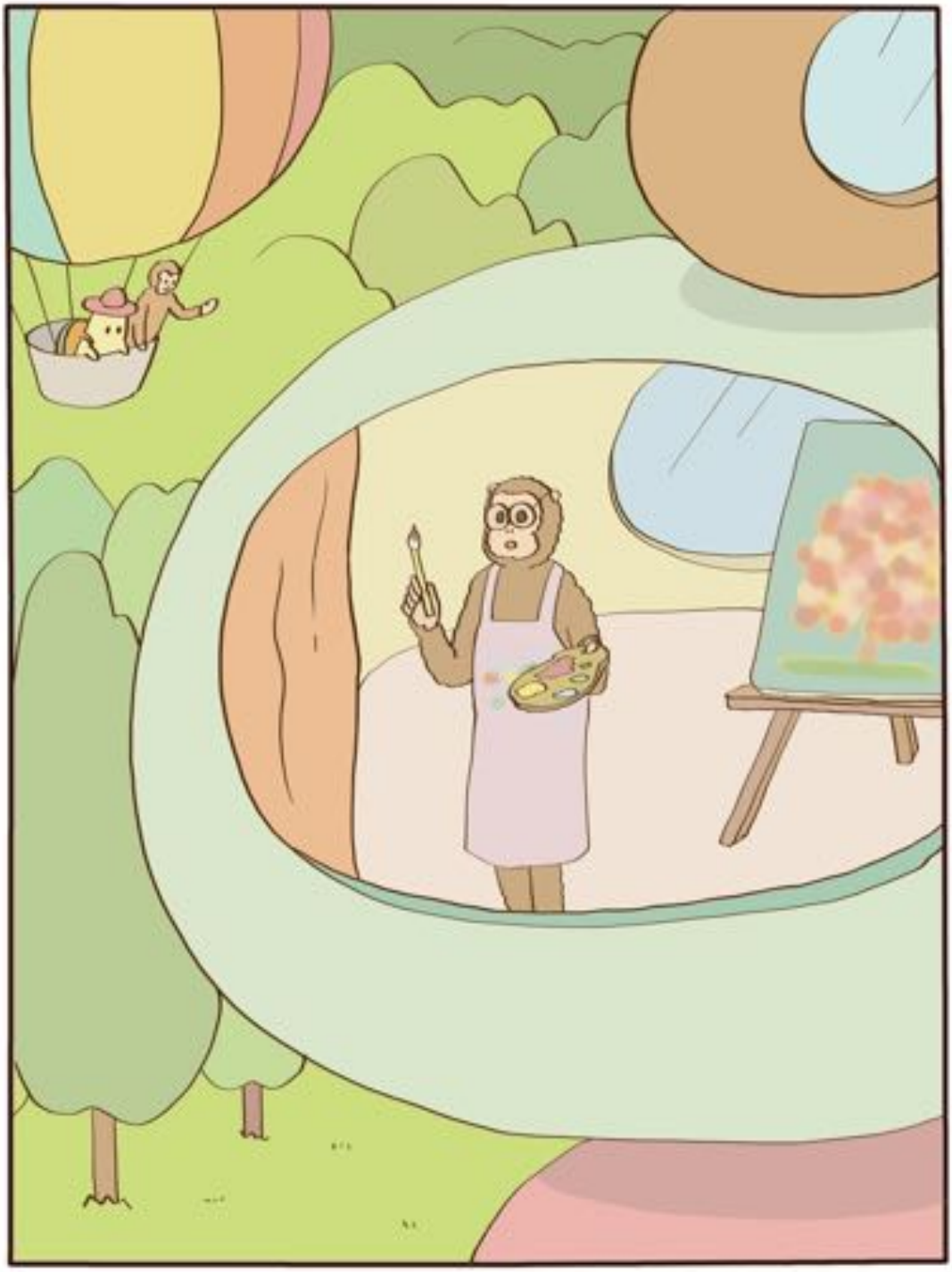
「この　かつら　だいすき。」
テトは　かつらを　かぶってみました。



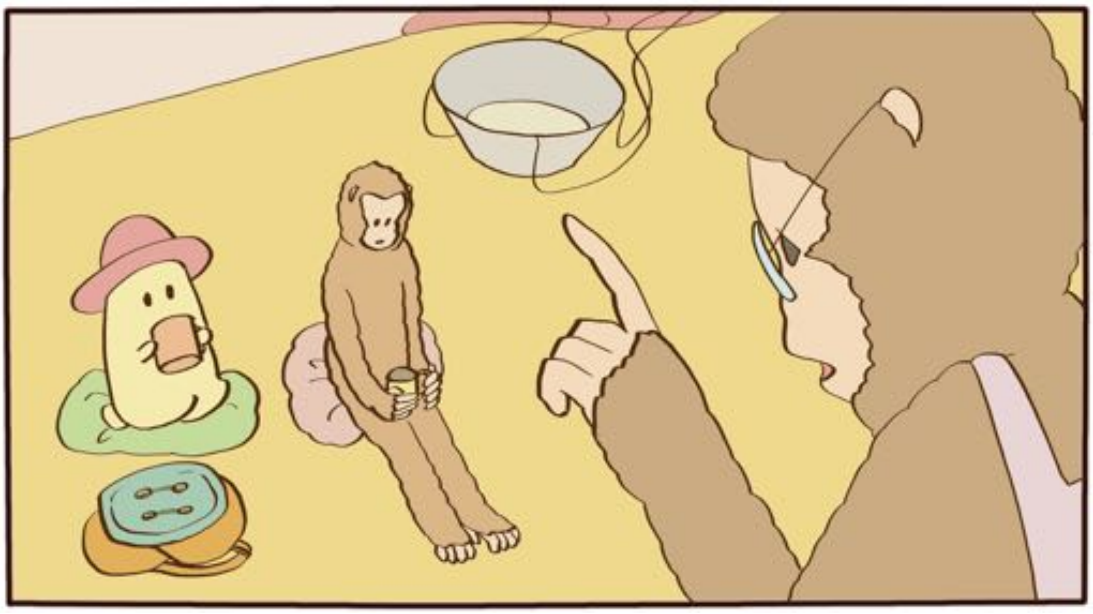
「ぼくは　これが　だいすき。」
サルも　かつらを　かぶってみました。



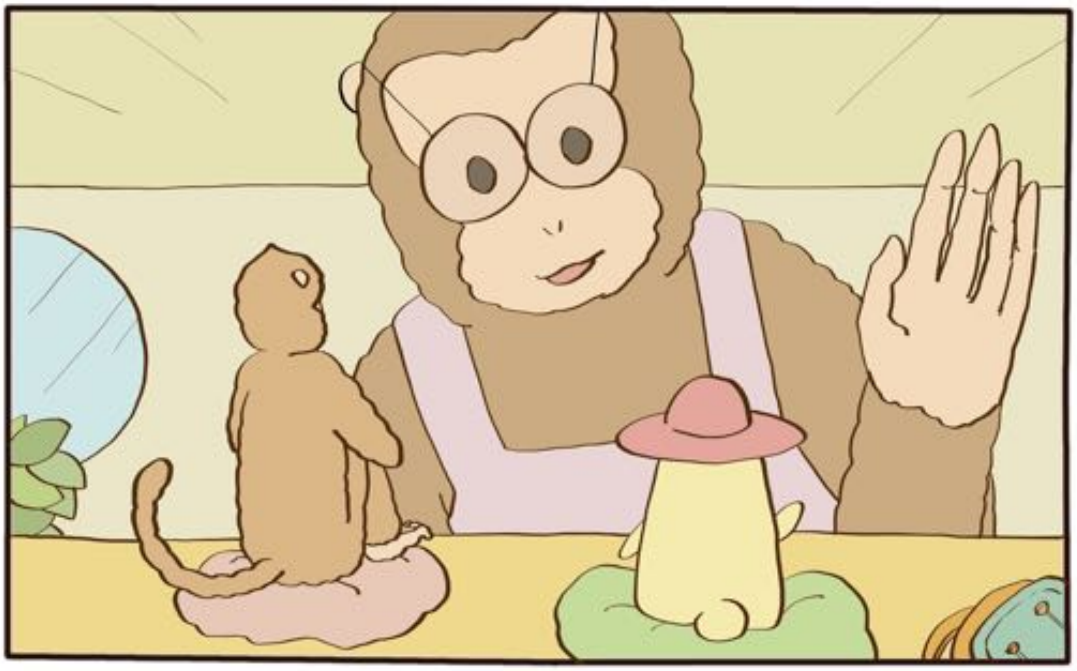
「きみの　おばあちゃんなら　いえに　かえったと
おもうよ。」と、あるサルラに　おしえられ、
ふたりは　サルの　いえに　もどりました。



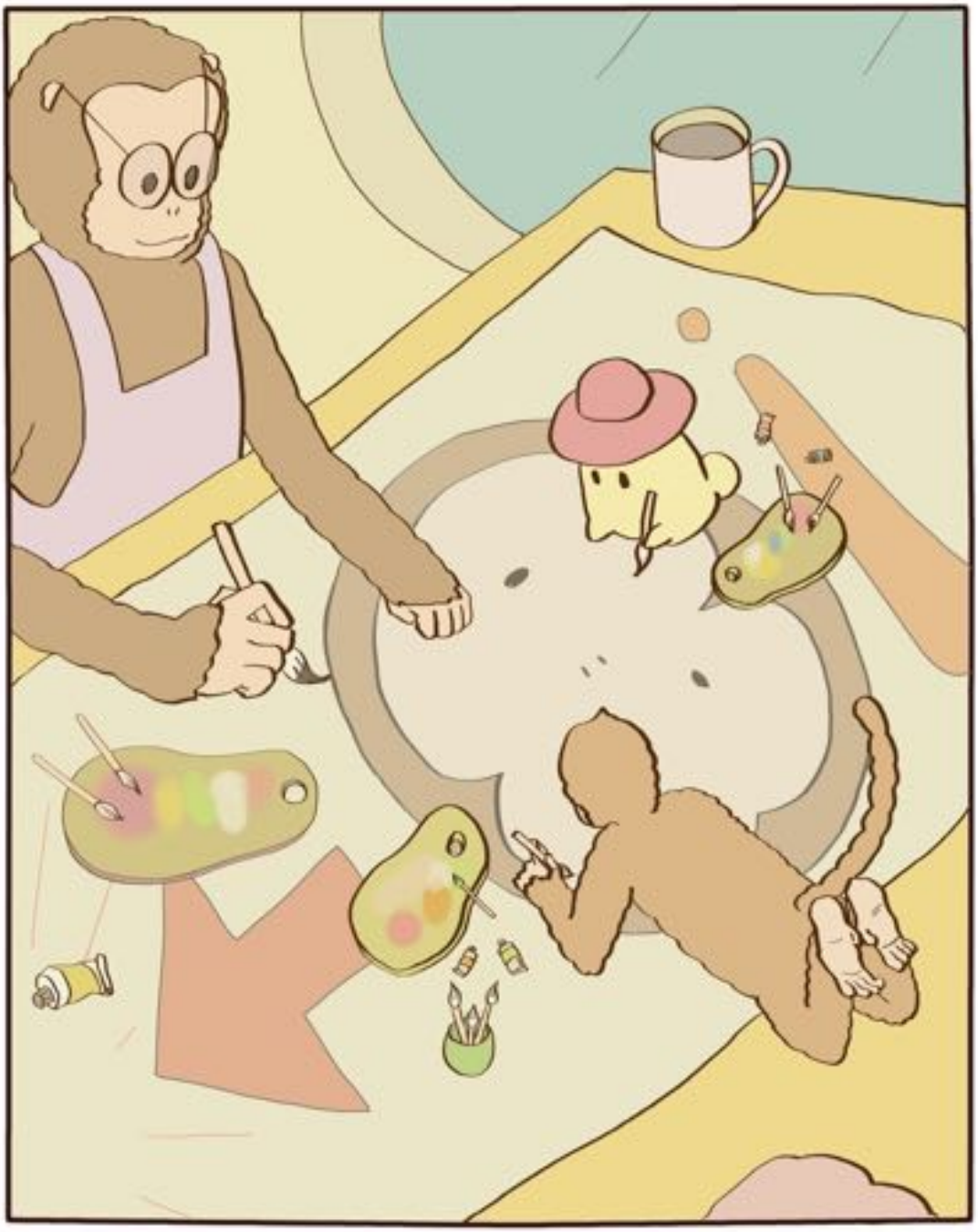
「あれ？サル？どうして　そんなに　ちいさいの？」
おばあちゃんが　おどろきました。
サルは　いままでの　ことを　はなしました。



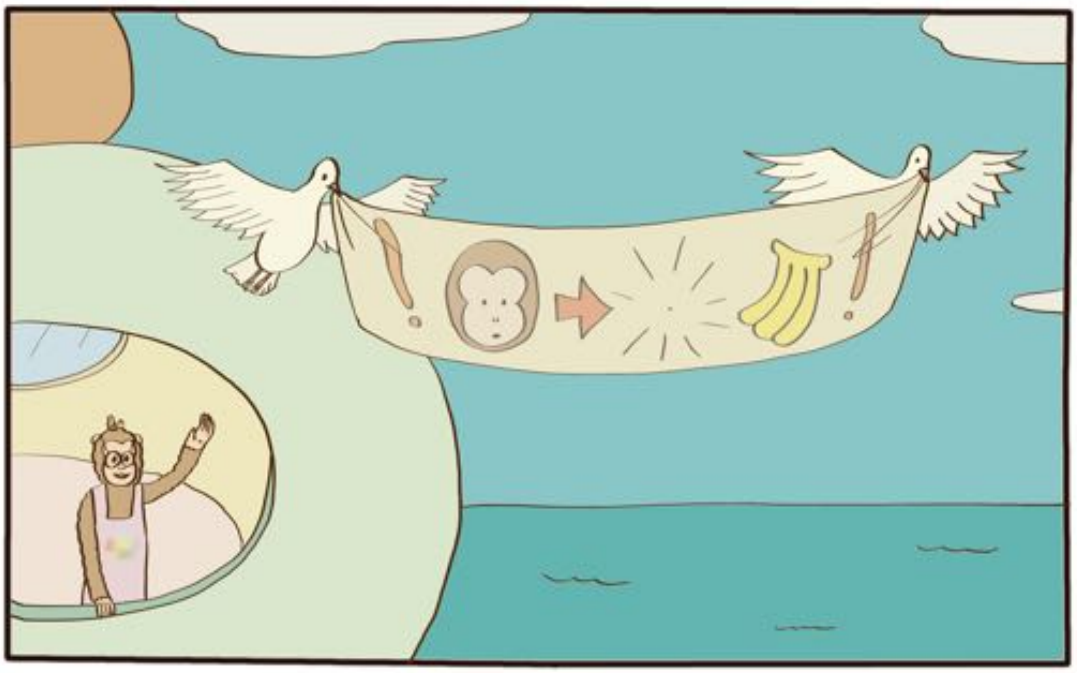
「しらない　きかいを　かってに　つかったら
いけないよ。」と、おばあちゃんが　いい、サルは
はんせい　しました。　「ごめんなさい。」



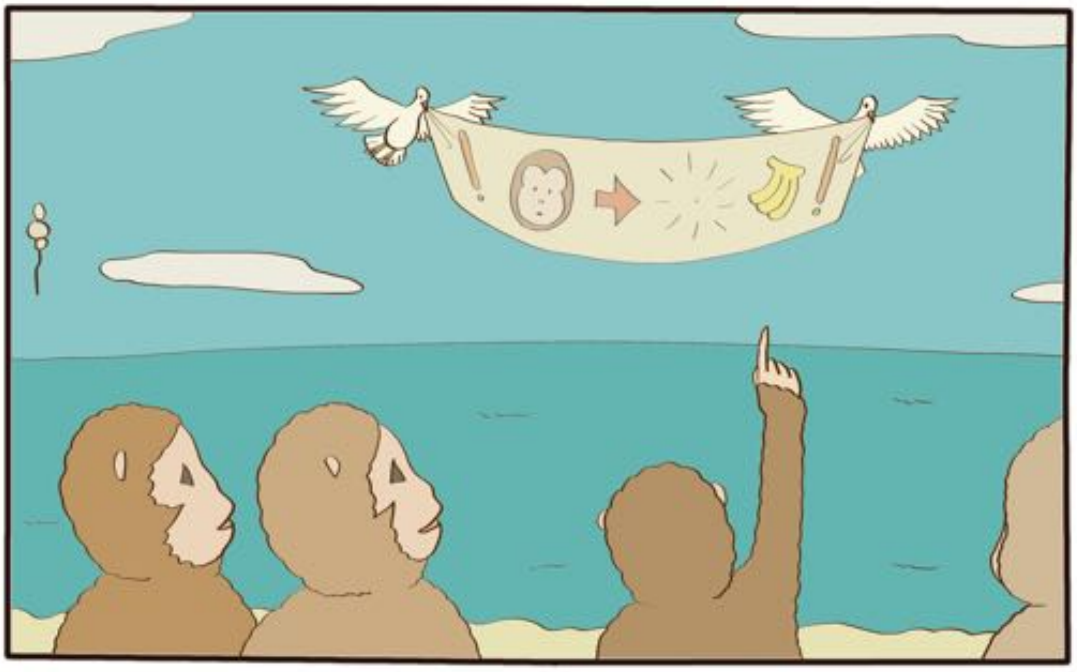
「サル、　もとに　もどる？」テトが　ききました。
「もどるよ。」と、おばあちゃんが　こたえ、
テトと　サルは　あんしんしました。



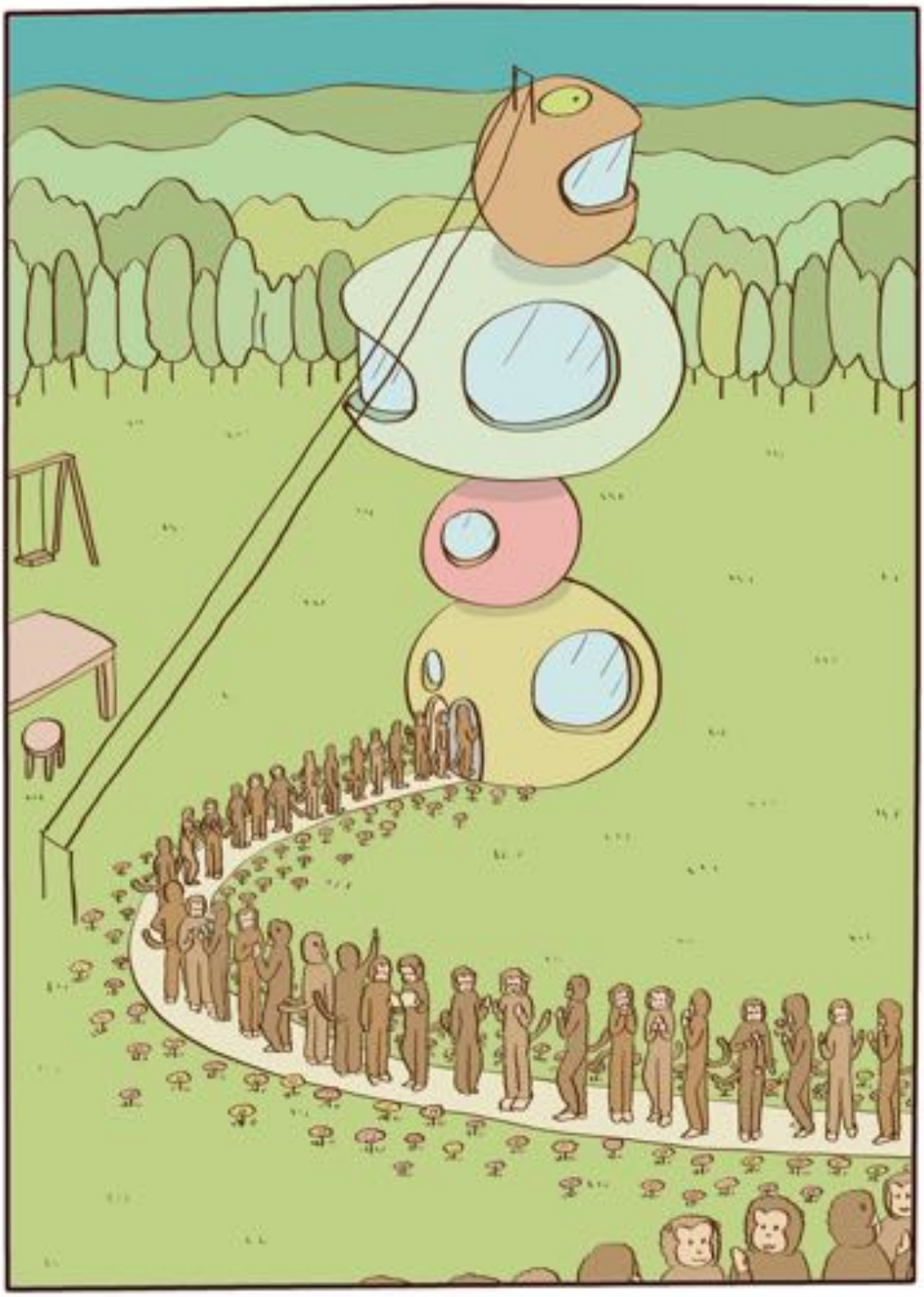
「そういえば　みんなも　ちいさく　なりたいって
いってたよ。」サルが　いいました。
「じゃあ　みんなを　しょうたい　しよう。」
さんにんは　いっしょに　おしらせを　かきました。



おばあちゃんは　おしらせを　ハトに
わたしました。



サルラたちは　ちいさく　なれる　おしらせを
うけて　よろこびました。



サルの　いえの　まえには　ちいさく　なりたい
サルラたちの　ながい　ぎょうれつが　できました。

ぜんいんの　サルラが　ちいさく　なったところで
おばあちゃんが　いいました。
「にわに　いいものが　あるよ！」

おばあちゃんに　つれられて　そとへ　でると
ケーキや　バナナ、ぶどうが　おいて　ありました。

「ケーキが　おおきい！」
「おなかいっぱい　たべられるね！」
ぜんいんで　ケーキや　バナナや　ぶどうを
モリモリ　たべました。

「きょうも　たのしい　いちにち　だったね！」
「ほんとだね！」
テトと　サルは　あすも　たのしい　いちにちを
すごすことに　なりますが、それは　また　べつの
おはなし。